

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：新生児集中ケア

平成 25 年 6 月改正

平成 29 年 3 月改正（共通科目のみ）

平成 31 年 4 月改正

令和 3 年 3 月改正（共通科目のみ）

（目的）

1. 急性期にあるハイリスク新生児とその家族の QOL 向上に向けて、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 新生児集中ケア分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. 新生児集中ケア分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

（期待される能力）

1. 新生児の病態の急激な変化を予測し、重篤化を予防するとともに、生理学的安定を図ることができる。
2. 新生児の障害なき成育のために神経行動学的な発達を促すための個別化されたケアを実施することができる。
3. 心理的な危機状態に直面している家族が、子どもとの関係を築けるよう支援することができる。
4. 急性期にあるハイリスク新生児とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
5. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
6. 新生児集中ケア領域の看護実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		小計 105
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15		
	7. 指導	必修	15		
	8. 特定行為実践	選択	15		105（+305）
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15		
	19. 対人関係	選択	15		
				小計 305	
専門基礎科目	1. 新生児集中ケア概論	必修	30		270
	2. フィジカルアセスメント	必修	30		
	3. 新生児集中ケアにおける臨床薬理	必修	15		
	4. 安全管理	必修	30		
	5. ハイリスク新生児の親の理解	必修	30		
	6. ストレスマネジメント	必修	15		
				小計 150	
専門科目	1. 新生児の病態とケア	必修	30		小計 120
	2. 新生児集中ケア技術論	必修	15		
	3. 新生児集中ケア方法Ⅰ	必修	30		
	4. 新生児集中ケア方法Ⅱ	必修	30		
	5. 新生児集中ケア指導	必修	15		
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	60		240
	臨地実習	必修	180		
				小計 240	
			総時間数	615（+305）	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価

★「医療安全学：医療安全管理」と「チーム医療論（特定行為実践）」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教科目	教科目のねらい	単元	時間数	
専門基礎科目	1. 新生児集中ケア概論	1) 新生児医療・看護の現状と変遷 2) 新生児集中ケア認定看護師の役割 3) 新生児集中ケア領域の倫理的課題 4) 新生児集中ケアに必要な法的知識と医療経済（診療報酬を含む） 5) 新生児集中ケアにおける社会資源の活用 6) チーム医療における協働	30	
	2. フィジカルアセスメント	1) 新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識を理解できる。 2) 新生児の発達生理を理解できる。 3) 新生児のフィジカルアセスメントを理解できる。	1) 新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識 (1) モニターの値・検査結果の判読 (2) 生理学のおよび行動学的観察 2) 新生児の発達生理 (1) 人の発生と胎児発育 (2) 出生前の環境と予後への影響 3) 新生児のフィジカルアセスメント (1) 健常新生児のフィジカルアセスメント (2) 低出生体重児のフィジカルアセスメント	30
	3. 新生児集中ケアにおける臨床薬理	1) 新生児集中ケア領域で用いる薬剤とその作用を理解できる。	1) 新生児期の薬物動態と薬理作用 2) 新生児集中ケア領域で用いられる薬剤	15
	4. 安全管理	1) リスクマネジメントに必要な知識を理解し、事故の予防と対策、発生時の対処を理解できる。 2) 災害対策について理解できる。 3) 医療機器の原理および安全な取り扱いについて理解できる。 4) 薬品管理・与薬の安全管理について理解できる。 5) 感染予防の原理・原則を理解できる。 6) 新生児の特徴を理解し、二次感染の予防について理解できる。	1) リスクマネジメント (1) リスクマネジメントに必要な知識 (2) 新生児集中ケア領域の事故の種類と要因 2) 環境・設備と安全対策 (1) 事故予防のための環境設備 (2) 災害対策 3) 医療機器と安全 (1) 医療機器の原理と使用法 (2) 医療機器の保守点検と管理 4) 薬品管理・与薬の安全対策 (1) 薬品管理 (2) 与薬法 (3) 与薬事故対策 5) 新生児集中ケアにおける感染対策 (1) 感染予防の原理・原則 (2) 新生児の免疫学的特徴 (3) 感染対策	30

※ゴシック体表記は、救急看護または集中ケアとの合同講義が可能な単元

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	5. ハイリスク新生児の親の理解	1) 危機理論の視点から家族にとっての出産・育児の意味およびケアを理解できる。 2) ハイリスク新生児をもつ親の心理を理解しアセスメントおよびケアが理解できる。 3) 周産期における虐待予防の重要性を理解し、予防的なケアが理解できる。	1) 母性と父性の理解 2) ハイリスク新生児をもつ家族の体験の理解とケア (1) 早産児の親（多胎児を含む） (2) 障害のある子どもをもつ親 (3) 子どもを亡くした親 (4) 不妊治療を経験した親 3) 周産期からの虐待予防	30
	6. ストレスマネジメント	1) 様々なストレス理論を理解し、実践できる。	1) ストレスマネジメント理論と活用 2) ストレスコーピング理論と活用	15

※ゴシック体表記は、救急看護または集中ケアとの合同講義が可能な単元

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. 新生児の病態とケア	1) 急性期にあるハイリスク新生児に起こりうる特徴的な疾患について理解し、個別的なアセスメントとケアを理解し実践できる。	1) 呼吸・循環不全とケア 2) 感染症とケア 3) 中枢神経障害とケア 4) 代謝障害とケア 5) 極・超低出生体重児のケア 6) 外科的疾患とケア 7) 先天性心疾患とケア	30
	2. 新生児集中ケア技術論	1) 新生児集中ケア領域におけるエビデンスに基づく看護技術を理解し、実践できる。	1) 新生児集中ケア技術の特性 2) 新生児集中ケアにおける看護技術 排泄援助技術、活動休息援助技術、清潔・衣生活援助、呼吸循環を整える技術、創傷管理技術、与薬技術、環境調整技術、食事援助技術、症状生体機能管理技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術	15
	3. 新生児集中ケア方法 I	1) 蘇生技術の方法と適用を理解し、実践できる。 2) 人工呼吸器の原理と呼吸管理の方法と適用を理解し、実践できる。 3) 急性期の理学療法について、ガイドラインに基づく呼吸理学療法と体位保持の方法と適用を理解し、実践できる。 4) 体温管理の方法と適用を理解し、実践できる。 5) 水分電解質管理・栄養管理の方法と適用を理解し、実践できる。 6) 皮膚ケアの方法と適用を理解し、実践できる。	1) 蘇生技術の基本と実際 2) 人工呼吸器の原理と呼吸管理の実際 3) 急性期の理学療法 (1) 呼吸理学療法 (2) 体位保持 4) 体温管理の実際 5) 水分電解質管理の実際・栄養管理 6) 皮膚ケアの実際	30
	4. 新生児集中ケア方法 II	1) 授乳（搾乳）の方法と適用を理解し、実践できる。 2) ファミリーセンタードケアの方法と適用を理解し、実践できる。 3) ディベロップメンタルケアの方法と適用を理解し、実践できる。 4) 鎮痛の方法と適用を理解し、実践できる。	1) 授乳（搾乳）の実際 2) ファミリーセンタードケアの実際 (1) 家族の心理 (2) 家族関係のアセスメント (3) 介入方法 3) ディベロップメンタルケアの実際 (1) AIs の共作用モデルと神経発達 (2) ストレスサイン・安定化サイン (3) 安定化のためのケア（タッチケア、カンガルーケア、光・音の調節等） (4) ディベロップメンタルケアの実践上の課題 4) 鎮痛法の実際 (1) 知覚の発達 (2) 痛みのアセスメント (3) 薬理的鎮痛法 (4) 非薬理的鎮痛法	30

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	5. 新生児集中ケア指導	1) 看護職者に対して効果的な指導ができるよう指導方法を理解し実践できる。 2) 看護職者に対して、自身の実践した指導について、評価できる。	1) 新生児集中ケアの指導案作成 (1 例) 2) 指導の実際 3) 指導の評価	15

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	学内演習	1) 新生児集中ケア領域における個別化されたケアの検討が実践できる。 2) 日常業務における潜在的な課題を抽出し、解決方法を導き出す能力を理解し実践できる。 3) 新生児集中ケア認定看護師としての活動を具体的に他者へ伝える方法を理解し実践できる。	1) 文献演習 2) 事例検討 ※①から④の中から選択して行う。 (1) グループ討議 (2) 個別的看護過程の展開 ①NICUにおける初期ケア ②極低出生体重児のケア ③疾病新生児のケア ④初期急性期における家族への看護 3) 臨地実習で受け持った事例に関するケースレポート作成とプレゼンテーション	60
臨 地 実 習	臨地実習	1) 新生児集中ケア認定看護師に必要な実践・指導・相談方法について理解し実践できる。 2) 急性期にあるハイリスク新生児とその家族に対して倫理的配慮を理解し実践できる。 3) 他の看護職者および医療チームメンバーとの円滑な人間関係を保ち、指導・相談の役割を理解し実践できる。	1) ケーススタディ (親へのケアを含む) (1) NICUにおける初期ケア (1 事例) (2) 極低出生体重児のケア (1 事例) (3) 疾病新生児のケア (1 事例) 2) 新生児集中ケア指導の実施 教科目「新生児集中ケア指導」で作成した指導案の実施	180